

資料 1



資料：航空写真（R3.12-14撮影）  
国土交通省北陸地方整備局提供

## 第2回 伏木富山港長期構想検討委員会

本編

令和8年1月

富山県

# 目 次

---

1. 伏木富山港長期構想について	2
2. 第1回委員会における主な意見と対応	5
3. 伏木富山港の将来像と目指す方向性	15
4. 取組方針と取組内容	17
5. 将来の空間利用計画(ゾーニング)	20
6. 長期構想の実現に向けたロードマップ	23

# 1 伏木富山港長期構想について

## 背景

- 伏木富山港を取り巻く環境は、取扱貨物等の変化(船舶の大型化・原木の減少・輸出中古車の増加等)や国内外の情勢変化(脱炭素社会への転換、モーダルシフトの加速、クルーズ観光の回復、激甚化する自然災害への対応等)から、新たな要請や役割が求められている。
- 社会情勢が大きく変動する中で、日本海側屈指のものづくり県の産業を支えるとともに、新たな企業立地を促進させ、更には賑わいがあり、持続可能で環境にやさしく、災害に強い「選ばれ続ける港」とするため、伏木富山港のあり方を検討する時期にきている。

## 目的

伏木富山港の地域特性を踏まえ、今後果たすべき役割について、長期的視点にたった将来像やその実現に向けた取り組みの方向性を検討する。

### 長期構想とは

港湾利用者、市民、行政機関、学識者など様々な港湾関係者の意見・要請をもとに概ね**20～30年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間の形成とそのあり方を構想・ビジョンとしてとりまとめたもの**

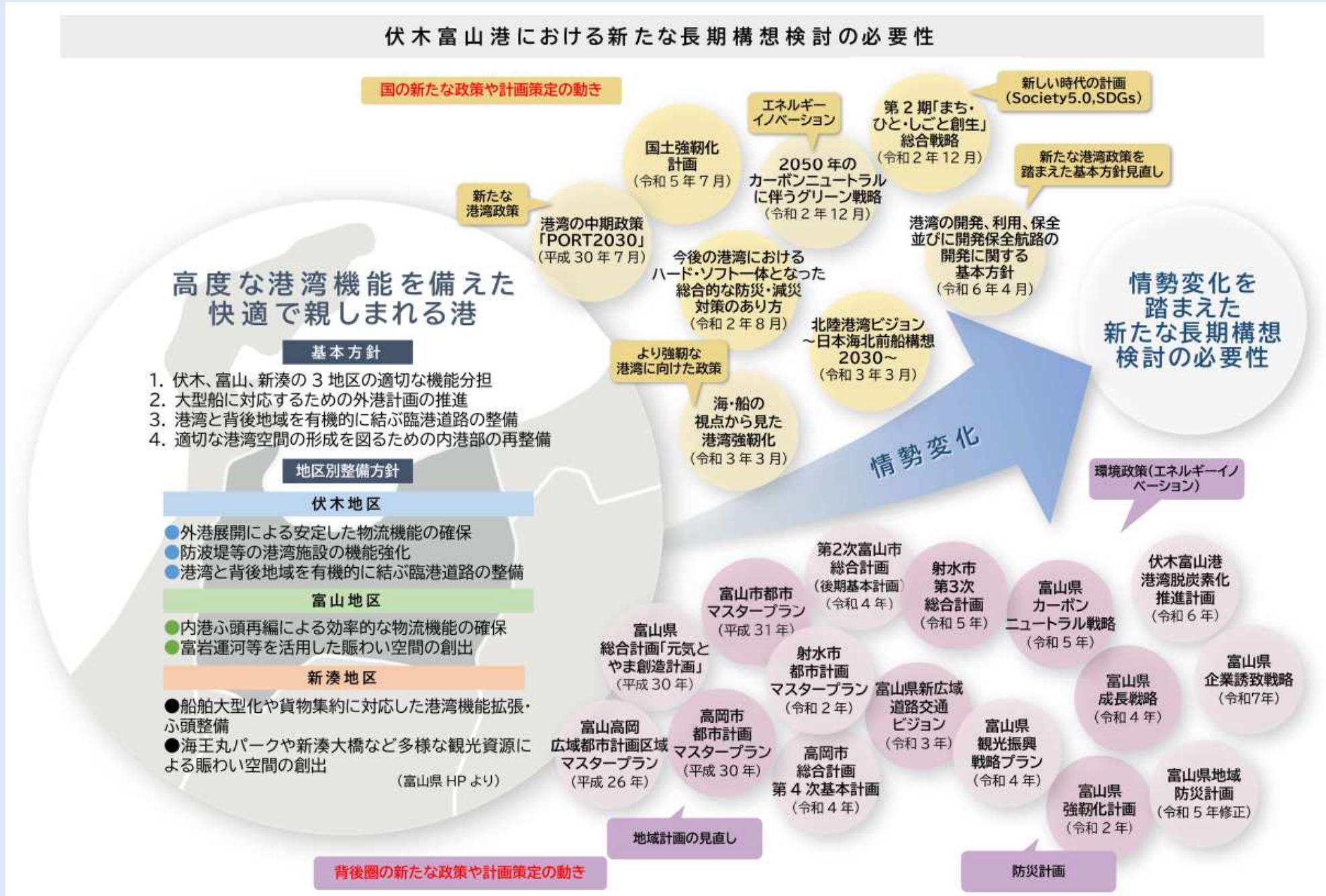
### 港湾計画とは

概ね10～15年先における**港湾空間のあるべき姿を実現することを目標とした中期計画**

※港湾法第三条の三の規定に基づく法定計画

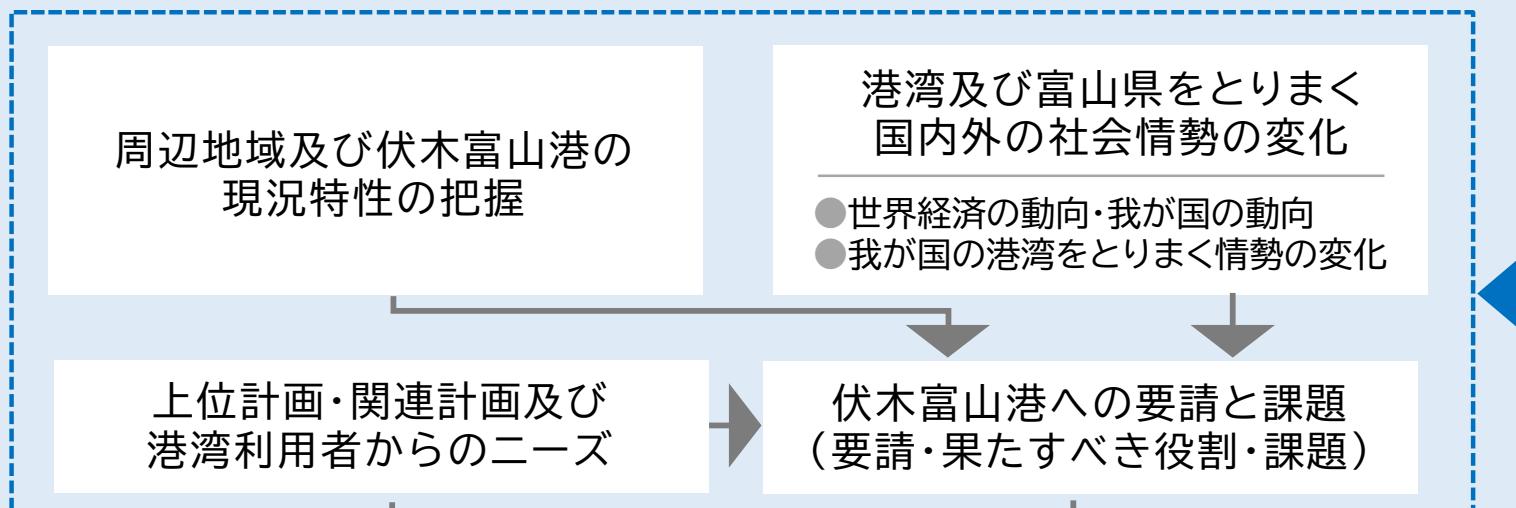
## 1 伏木富山港長期構想について

# 伏木富山港長期構想の背景と目的

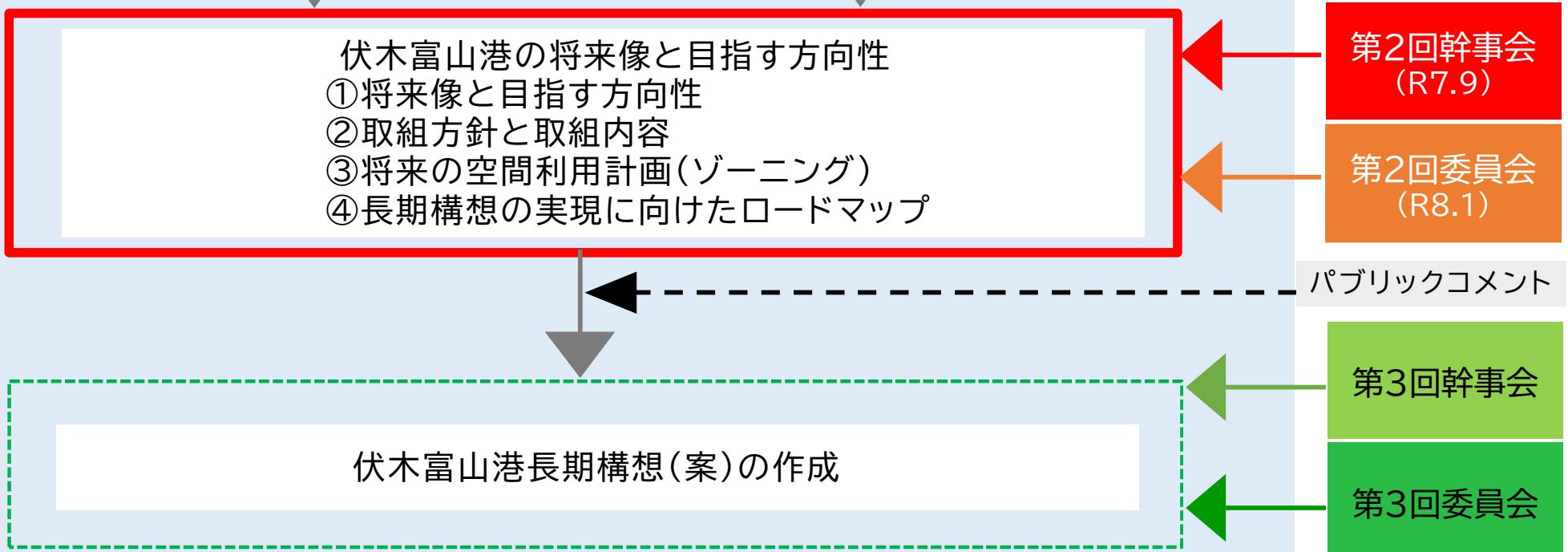


# 1 伏木富山港長期構想について 検討の進め方

〈前回〉



〈今回〉



## 2 第1回委員会における主な意見と対応

※伏木富山港の現況特性の把握など(第1回検討委員会資料抜粋)

### I.周辺地域(背後圏)と伏木富山港の現況特性

#### ●周辺地域(背後圏)

- 【立地】伏木富山港は、関東・関西・中京の主要経済圏に等距離で接しており、地理的優位性を有する
- 【人口】富山県は、人口・就業者数が減少しており、2060年には約10万人の労働力不足が見込まれる
- 【産業】臨海部に非鉄金属・鉄鋼、電気・電子、化学、紙・パルプなどの産業が集積し、地域産業の中核
- 【観光】外国人旅行者が増加傾向、立山黒部、世界遺産五箇山、富岩運河環水公園など、観光資源が豊富
- 【災害】令和6年能登半島地震により最大震度5強を記録し、港湾施設約90箇所に被害

#### ●伏木富山港の現況

- 【港の役割】北陸地方の物流拠点、特定重要港湾(S61)および国際拠点港湾(H23)に指定

### II.港湾及び富山県をとりまく国内外の社会情勢の変化

- 【GDP】先進国、アジア圏の新興国・途上国において名目GDPの増加が予測されており、国際経済活動の拡大が見込まれる
- 【貿易】近年、ASEAN諸国をはじめ、日本・中国・韓国などアジア地域における貿易量が増加傾向
- 【人手不足】物流需要の増加に伴い、トラックドライバー不足、人材不足が顕在化
- 【カーボンニュートラル】2050年までにカーボンニュートラルポートの形成を目指す

### III.上位関連計画及び港湾利用者のニーズ

- 上位計画:物流・産業、環境、観光、防災の各分野において、海上輸送網や国内物流体系の構築、脱炭素化、クルーズ拠点化、防災空間の拡充、耐震性向上などに取り組む方針
- 港湾利用者のニーズ(企業ヒアリング結果より抜粋)
  - 【物流・産業】船舶の大型化により岸壁水深が不足、ヤード不足の中、DX化で効率化を図っているが、取扱量は限界に近い、加えて、ドライバー不足への対応として、フェリー・RORO船の就航を求める、また、今後、遠方輸送を鉄道へ転換する方針
  - 【環境】水素等の受入・貯蔵環境の整備を求める、富山市エコタウンを活用したリサイクルポート機能の検討も必要
  - 【観光】クルーズ船の受入増加により、貨物船の運航に支障(入港制限等)が出ている
  - 【防災】BCPの観点から、中京圏など背後圏として捉える必要がある

## 2 第1回委員会における主な意見と対応

### ○伏木富山港(伏木地区)における現状の役割・機能(第1回検討委員会資料から)

外港展開が完了しており、3万DWTの大型貨物船や国際RORO船の受入れが可能のほか、大型クルーズ船(22万GT級)も寄港が可能である。今後は貨物船の大型化等に対応するため、外港の機能強化等が求められている。



## 2 第1回委員会における主な意見と対応

### ○伏木富山港(新湊地区)における現状の役割・機能(第1回検討委員会資料から)

コンテナ貨物の取扱が可能、また、バルク貨物の拠点となっており、更なる機能強化が求められている。旅客船専用バースや海王丸パークなど賑わい空間を創出しており、リニューアル等により磨き上げが求められている。LNG火力発電所を有するなど周辺地域の脱炭素化を先導しており、今後は次世代エネルギーの受け入れに向けた拠点形成が必要。



## 2 第1回委員会における主な意見と対応

### ○伏木富山港(富山地区)における現状の役割・機能(第1回検討委員会資料から)

中古車輸出等の拠点となっているが、用地や泊地が狭く非効率であり、また、取扱貨物の増加に向けて外港展開を図る必要がある。災害時における緊急物資受入れ拠点として、国において、耐震強化岸壁を整備中。



## 2 第1回委員会における主な意見と対応

1/3

### 物流・産業

No.	意見	対応
1	3地区の役割・機能分担の明確化及び機能再編も必要。	・3地区は、それぞれ火力発電所や石油配分基地などエネルギー供給拠点があり、背後に数多くの企業が立地している。日本海側屈指の工業集積を支えてきたことから、これまでの役割・機能を基本とする。また、モーダルシフトへの対応や環境への配慮など新たな役割を担いつつ、機能強化、機能再編を図る。
2	新たな臨海型企業誘致、次世代エネルギー受入拠点や上屋等を整備するため、水面埋立て(遊休地活用、外港展開)による背後地拡大が必要。	・「ものづくり県」の産業競争力を支え、強化し、新たな企業を呼び込むため、企業の立地、交易拡大による取扱貨物量の増加、次世代エネルギーの受入れ等に必要な用地の確保(遊休水面の埋立て等)を図る。
3	人手不足に対応した機械化・ITによる効率化、利便性の向上などDXによる作業効率化・省人化を官民連携で図るべき。	・人手不足や担い手不足の対応策として、DX・AIターミナルなどの最新技術による自動化・省力化等により、港湾環境や労働環境の改善を図る。
4	エッセンシャルワーカーである港湾労働者の確保が重要であり、港湾の労働環境改善に向けた官民一体の取組みが必要。	・本県の産業競争力を支え、強化し、新たな企業を呼び込むため、バルク貨物・中古車など多様な取扱いニーズへ対応したヤードの確保とともに、リサイクル貨物を扱う港として、機能強化を図る。
5	バルク貨物が多いのが特徴であり、ヤードの拡張や <u>リサイクル</u> 貨物を扱う港の機能充実など特色を活かした施策が必要。	・貨物の輸送効率化のため、主要幹線道路等と接続する臨港道路の機能強化、JR貨物駅(高岡・富山)を活用した <u>鉄道輸送との連携</u> を図る。
6	既存インフラを活用した、船舶とトラック、鉄道を組合せた最適物流の展開が必要。連続した重要物流道路網の構築が必要。	・船舶の大型化、農林水産品の輸出拡大、次世代エネルギーなど貨物の増大に対応するため、 <u>新湊地区国際物流ターミナルの機能強化</u> (AIターミナルへの機能向上、岸壁延伸やヤード拡張など)を図る。
7	<u>コンテナターミナル</u> の埠頭用地の拡大等が必要。	・輸送効率化や労働者不足のため、高規格ターミナルの形成を図る。また、JR貨物駅(高岡・富山)を活用した鉄道輸送との連携を図る。
8	2024年問題に対してモーダルシフトは不可欠である。	

## 2 第1回委員会における主な意見と対応

2/3

### 環境

No.	意見	対応
1	脱炭素化に向けた次世代エネルギーの受入拠点整備が必要	・富山県カーボンニュートラル戦略においては、「伏木富山港において、水素・アンモニア等のサプライチェーンの拠点としての受入環境の整備について検討し、カーボンニュートラルポートの形成に取り組む。」としており、タンクコンテナやタンカー船の受入拠点の形成を図る。
2	今後の気候変動による潮位上昇対策が必要。	・近年の気候変動に伴う影響(平均海面水位の上昇等)を考慮して、港湾施設や海岸保全施設の強化を図る。
3	リサイクルエコノミー、リサイクルを扱う港としての機能充実が必要である。	リサイクル施設と連携したサーキュラーエコノミーポートの形成を図る。
4	航行の安全が保障されるならば、物流と漁業が共存できることを考えている	長期構想の策定後、港湾計画や事業化の検討段階において、航行安全検討委員会等で航行上の安全性は別途評価する。

### 観光・賑わい

No.	意見	対応
1	景観に配慮した旅客船の受入環境の向上や荷役作業の効率化を図るため、貨物船と旅客船の係留施設の分離を図ることが必要。	・景観に配慮した受入環境の向上や貨物船と旅客船の係留施設の分離については、まずは旅客船の寄港回数の増加を目指すとともに、効果的な機能配置等を検討する。
2	旅客船ターミナルを整備してほしい。	・ターミナル整備が視野に入るよう、クルーズ旅客の満足度向上を図り寄港回数の増加を目指す。
3	時代のニーズに沿った新たな海王丸パークのリニューアルが必要。	・利用者等のニーズをもとに民間事業者の知恵やノウハウを活かし、海王丸パークの魅力向上と賑わい創出を図る。
4	港周りの観光施設等の充実に加え、インフラツーリズムなど観光と連動させた取り組みも必要。	・みなとオアシスや港湾緑地を活用するなど既存の観光資源等を活かし、観光拠点、賑わい空間の形成を図る。

## 2 第1回委員会における主な意見と対応

3/3

### 防災

No.	意見	対応
1	災害時における太平洋側のバックアップの観点から、港湾施設の強靭化対策に加え、リスク分散を図るうえで企業誘致活動も必要。	<ul style="list-style-type: none"><li>・大規模災害時においても海上輸送を可能とするため、耐震強化岸壁の整備・活用、ヤード拡張など港湾施設の機能を強化し、防災拠点化を図る。</li><li>・関東圏・中京圏・近畿圏とのアクセス性を活かした太平洋側のバックアップ機能の強化を図る。</li></ul>
2	能登半島地震の教訓を踏まえ、物流機能を維持するための液状化対策、荷役機械の二重化が必要。	<ul style="list-style-type: none"><li>・港湾施設の機能強化、事業継続計画(BCP)の更新など、災害時において、速やかな機能回復が可能となる港湾を目指す。</li></ul>
3	今後の気候変動による潮位上昇対策が必要。	<ul style="list-style-type: none"><li>・近年の気候変動に伴う影響(平均海面水位の上昇等)を考慮して、港湾施設や海岸保全施設の強化を図る。【再掲：環境_No2】</li></ul>

## 2 第1回委員会における主な意見と対応

第1回委員会での意見を踏まえた追加課題(第1回委員会提示の課題要請に追記)

### 【伏木地区】

バイオマス燃料の推進に加え  
次世代エネルギーの受入への対応

耐震強化岸壁を活かした震災発生時の機能発揮

物流機能強化のための静穏度対策

港湾緑地、みなとオアシスや旧港の活用

機能強化

対岸諸国との交易拡大に資する物流機能強化  
(バラ貨物・完成自動車等)

大水深岸壁を活かした大型クルーズ客船の受入  
(インバウンド増加への対応)  
※現状で貨客併用岸壁のため滞船が顕在

港湾緑地(万葉緑地)

立地ポテンシャルを活かした3大都市圏等のバックアップへの対応

JR貨物駅との近接性を活かした鉄道との連携

完成自動車の荷役

海域環境との共存・共生

大型クルーズ客船の係留

気候変動への対応

不法係留対策

資料：航空写真(R5.12.8撮影)  
国土交通省北陸地方整備局提供

物流・産業

環境

観光・賑わい

防災

前回委員会から追加

## 2 第1回委員会における主な意見と対応

第1回委員会での意見を踏まえた追加課題(第1回委員会提示の課題要請に追記)

### 【新湊地区】

クルーズ船の寄港促進が課題  
(海王岸壁の整備計画の実現)

立地ポテンシャルを活かした3大都市圏等  
のバックアップへの対応

耐震強化岸壁を活かした震災  
発生時の機能発揮



沖側は憩い・賑わい空間  
として機能しておりさら  
なる活性化が求められる

JR貨物駅との近接性を  
活かした鉄道との連携

対岸諸国との交易拡大に  
資する物流機能強化

海域環境との共存・共生

気候変動への対応

みなとオアシス  
海王丸パーク

元気の森公園

新湊マリーナ

海浜



物流・産業

環境

観光・賑わい

防災

資料：航空写真（R5.12.8撮影）  
国土交通省北陸地方整備局提供

遊休化した水面貯木場や利用頻度の  
少ない南水路の有効活用

前回委員会から追加

## 2 第1回委員会における主な意見と対応

第1回委員会での意見を踏まえた追加課題(第1回委員会提示の課題要請に追記)

### 【富山地区】

The map shows the Toyama Port area with several key features highlighted:

- 民間シーバース (Civilian Seaport):** Located in the northern part of the port.
- 船だまり (Berth):** A specific area along the waterfront.
- 火力発電所 (Power Plant):** Located near the port's industrial zone.
- 石油関連企業 (Petroleum-related Enterprises):** A large green circle indicating industrial facilities.
- 富岩運河 (Fukuroto Canal):** A waterway connecting the port to the city.
- 神通川右岸の臨港道路の拡幅強化 (Expansion and reinforcement of the port access road along the Shuntoku River right bank):** An annotation pointing to the riverbank area.
- 富山港左岸(草島地区)は災害時の避難場所等がない (There are no evacuation sites or other facilities on the left bank of Toyama Port (Kashima area) in case of disaster):** An annotation pointing to the left bank area.
- 耐震強化岸壁(整備中)を活かした震災発生時の機能発揮 (Utilizing the reinforced seismic-resistant pier (under construction) during a disaster to exert its functions):** An annotation pointing to the pier area.
- 中古車輸出拠点として、今後も機能の維持・強化が不可欠 (As a used car export base, it is essential to maintain and strengthen its functions in the future):** An annotation pointing to the northern port area.
- 機能強化 (Function Reinforcement):** A pink arrow pointing towards the central port area.
- 岩瀬の古い街並み (Old town street of Iwase):** An annotation pointing to the old town area.
- 市街地に近接し狭隘な小頭用地のため解消が不可欠、倉庫の不足や老朽化、適正な水域施設の整備 (Due to proximity to urban areas and narrow small head land, elimination is essential. There is a shortage and aging of warehouses, and the need for appropriate waterway facilities):** An annotation pointing to the city area.
- JR貨物駅との近接性を活かした鉄道との連携 (Utilizing the proximity to the JR Freight Station to promote rail connectivity):** An annotation pointing to the railway connection area.
- 富山市エコタウンとの連携 (Promotion of connectivity with Toyama City Eco Town):** An annotation pointing to the eco-town area.
- 海域環境との共存・共生 (Coexistence and coexistence with marine environment):** An annotation pointing to the marine environment area.
- 気候変動への対応 (Response to climate change):** An annotation pointing to the climate change response area.

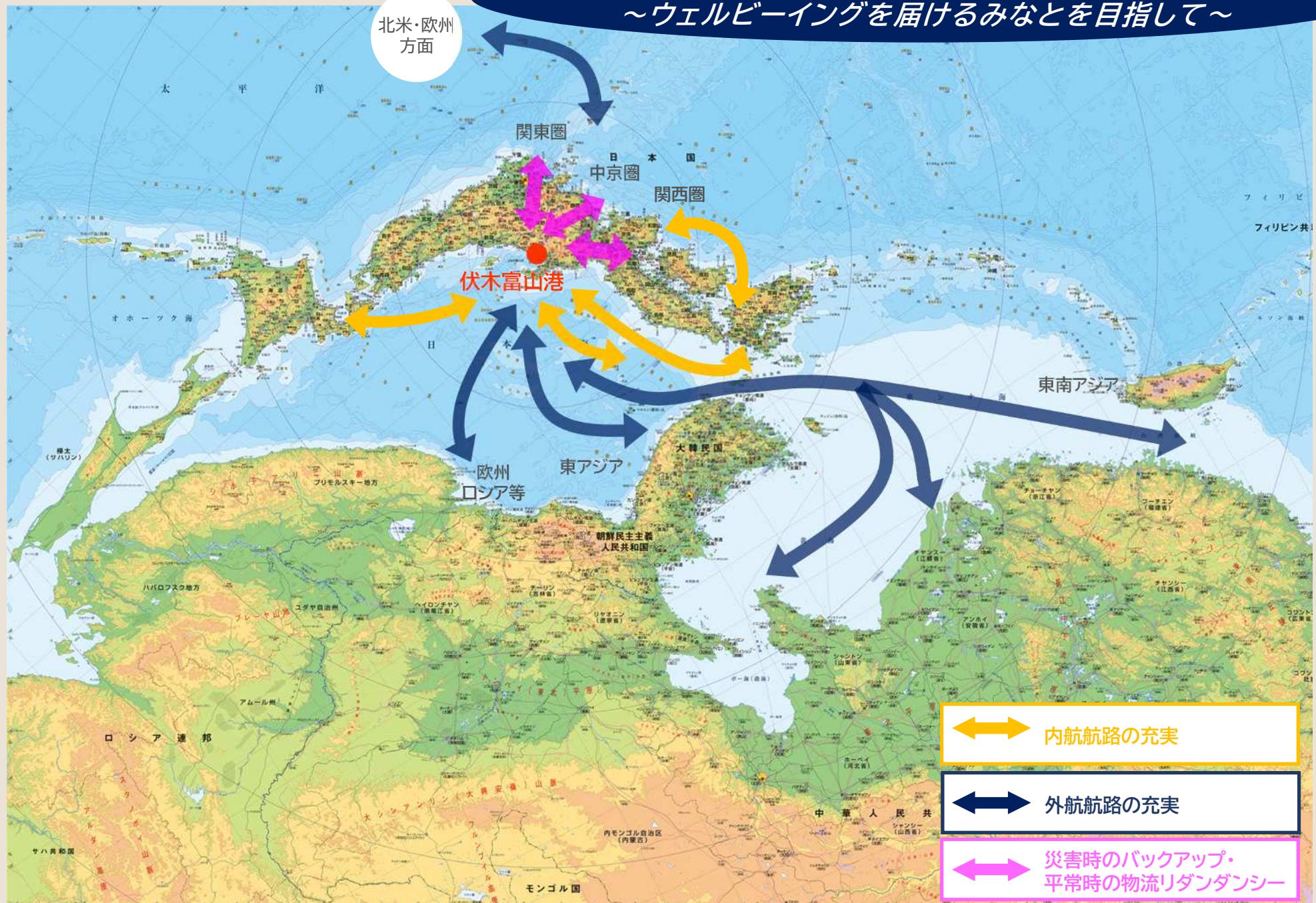
Bottom left: Category tabs (物流・産業, 環境, 観光・賑わい, 防災) and a note: 資料：航空写真（R5.12.8撮影） 国土交通省北陸地方整備局提供

Top right: A photograph of a ship loaded with cars at the port, with the date 2023.06.30 visible.

Bottom right: A red box with the text "前回委員会から追加" (Added from the previous committee meeting).

### ③ 伏木富山港の将来像と目指す方向性

アジアへ拓く伏木富山港  
～ウェルビーイングを届けるみなとを目指して～



### 3 伏木富山港の将来像と目指す方向性

I.周辺地域(背後圏)と  
伏木富山港の現況特性

II.港湾及び富山県をとりまく  
国内外の社会情勢の変化

III.上位関連計画及び  
港湾利用者のニーズ

#### 物流・産業

#### 環境

#### 観光・ 賑わい

#### 防災

##### 求められるもの

- ・地理的優位性を活かしたアジアとの交易拡大
- ・労働者不足の深刻化、物流効率化への対応
- ・大水深岸壁の活用、港湾施設のさらなる機能強化

- ・日本海側屈指の工業集積を支えるエネルギー拠点の形成
- ・官民連携による脱炭素化の推進、循環資源社会への貢献

- ・国内外からのクルーズ旅客の満足度向上
- ・海王丸パークなど港の観光資源の活用、磨き上げ
- ・富山の食や歴史、景観など富山ブランドの活用

- ・災害時の速やかな港湾機能の回復
- ・ものづくり県土の防護、物流機能の維持
- ・太平洋側港湾等のバックアップ機能の確保

##### 目指す方向性

日本海側の産業を支える  
ゲートウェイのさらなる進化

未来の環境を守るカーボン  
ニュートラルポートの形成

選ばれる寄港地、ベイエリア  
の賑わい空間の創出

レジリエンスの高い強靭な  
港の形成

##### 将来像

アジアへ拓く伏木富山港  
～ウェルビーイングを届けるみなとを目指して～

## 4 取組方針と取組内容

### 物流・産業

目指す方向性

取組方針

取組内容

1-1  
アジア等との交易拡大を目指した機能強化

産業基盤の強化、新たな企業集積等の促進

①大水深岸壁を活かしたバルク貨物等のための機能強化

②安価で安定した多様な電源(LNG、バイオマス、水素等)の供給拠点の強化

③多様な取扱いニーズに対応する受入機能の強化

④臨港交通ネットワークの強化

⑤多様な物流モードを活かした物流シームレス化

1-2  
効率的で高度な物流拠点の形成

労働者不足等の社会情勢の変化、物流効率化への対応

⑥高規格ターミナルの整備

⑦循環型社会(サーキュラーエコノミー)に資する拠点の形成

⑧遊休水面の利活用による物流拠点の整備

⑨安定的な港湾サービスの提供

1-3  
集荷促進と定期航路の維持・拡充

港湾利用拡大や多様化する輸送ニーズへの対応

⑩インセンティブの充実による集荷促進と航路の維持・拡充

⑪豊かな食の富山ブランドの国内外の販路拡大等による集荷促進

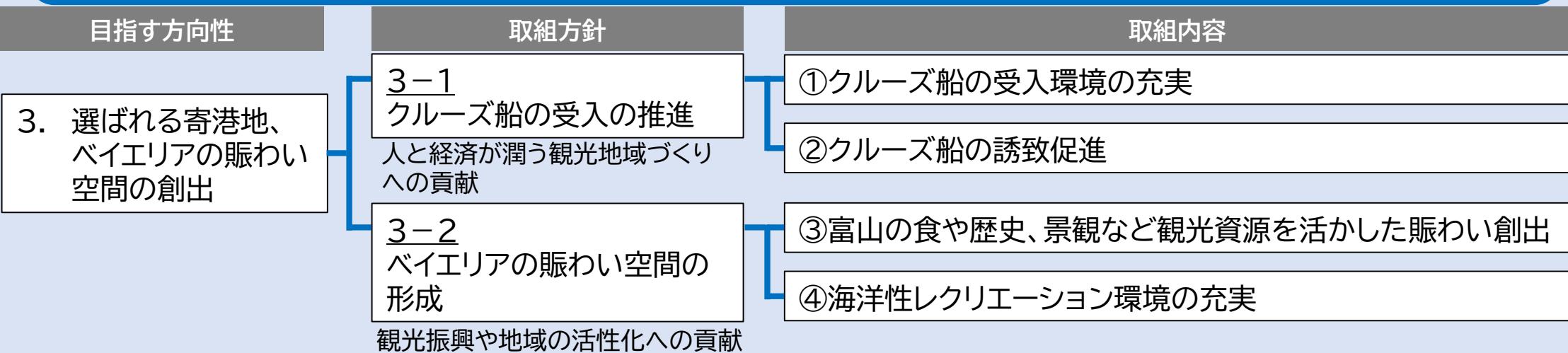
## 4 取組方針と取組内容

### 環境

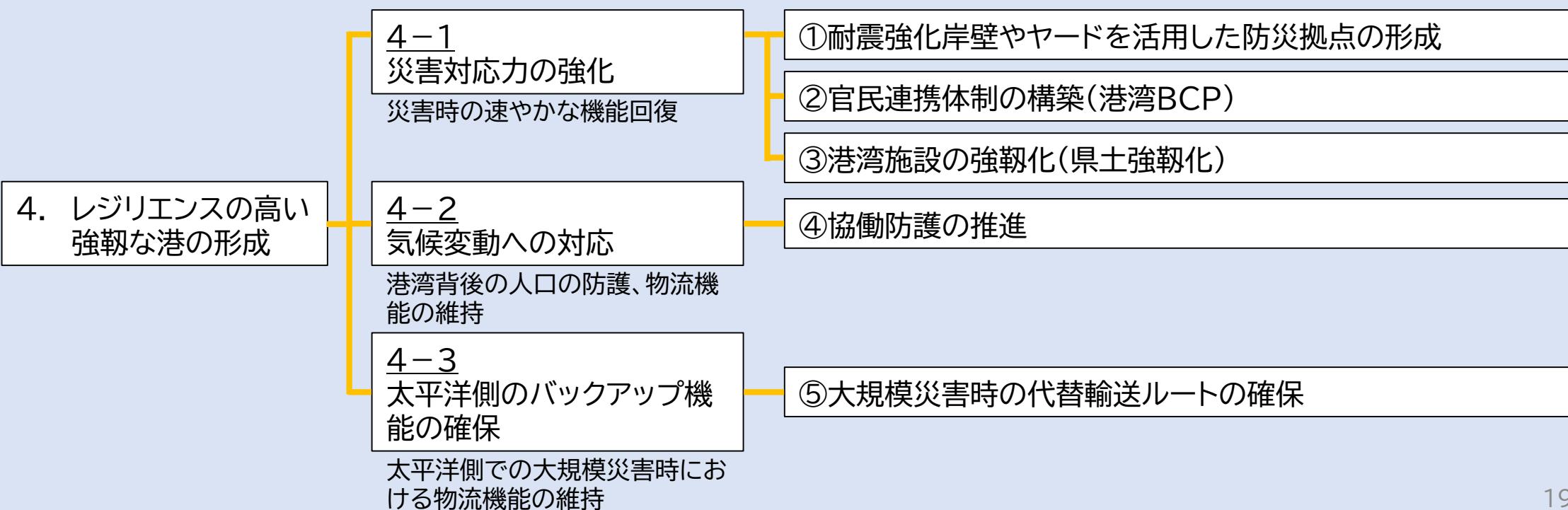
目指す方向性	取組方針	取組内容
2. 未来の環境を守る カーボンニュートラル ポートの形成	<p><u>2-1</u> 産業を支えるエネルギー受入拠点の形成</p> <p>産業競争力強化や脱炭素社会の実現への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>①伏木富山港港湾脱炭素化推進計画の推進</li><li>②次世代エネルギーの受入拠点の形成</li><li>③LNGの確実な供給体制の確保</li><li>④燃料転換の推進を図る企業への支援</li></ul>
	<p><u>2-2</u> 資源循環の推進</p> <p>環境負荷の低減や経済の新たな成長機会の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>⑤サーキュラーエコノミーに資する拠点の形成 【再掲 物流・産業⑦】</li></ul>
	<p><u>2-3</u> ブルーカーボンの推進</p> <p>気候変動対策と地域環境の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>⑥自然海浜・藻場等の造成</li></ul>

## 4 取組方針と取組内容

### 観光・賑わい



### 防災



## 5 将来の空間利用計画(ゾーニング)

注：20年～30年後の将来像をゾーニングしたものであり、現在の空間利用と合致しない場合がある

**[2-1]産業を支えるエネルギー受入拠点の形成**

**[2-2]資源循環の推進**

**[1-1]アジア等との交易拡大を目指した機能強化**

**[1-2]効率的で高度な物流拠点の形成** **[1-3]集荷促進と定期航路の維持・拡充**



**[2-1]産業を支えるエネルギー受入拠点の形成**

**[3-2]ベイエリアの賑わい空間の形成**

**[3-1]クルーズ船の受入の推進**

※貨客分離を検討

**[3-2]ベイエリアの賑わい空間の形成**

**[3-2]ベイエリアの賑わい空間の形成**

**[4-1]災害対応力の強化**

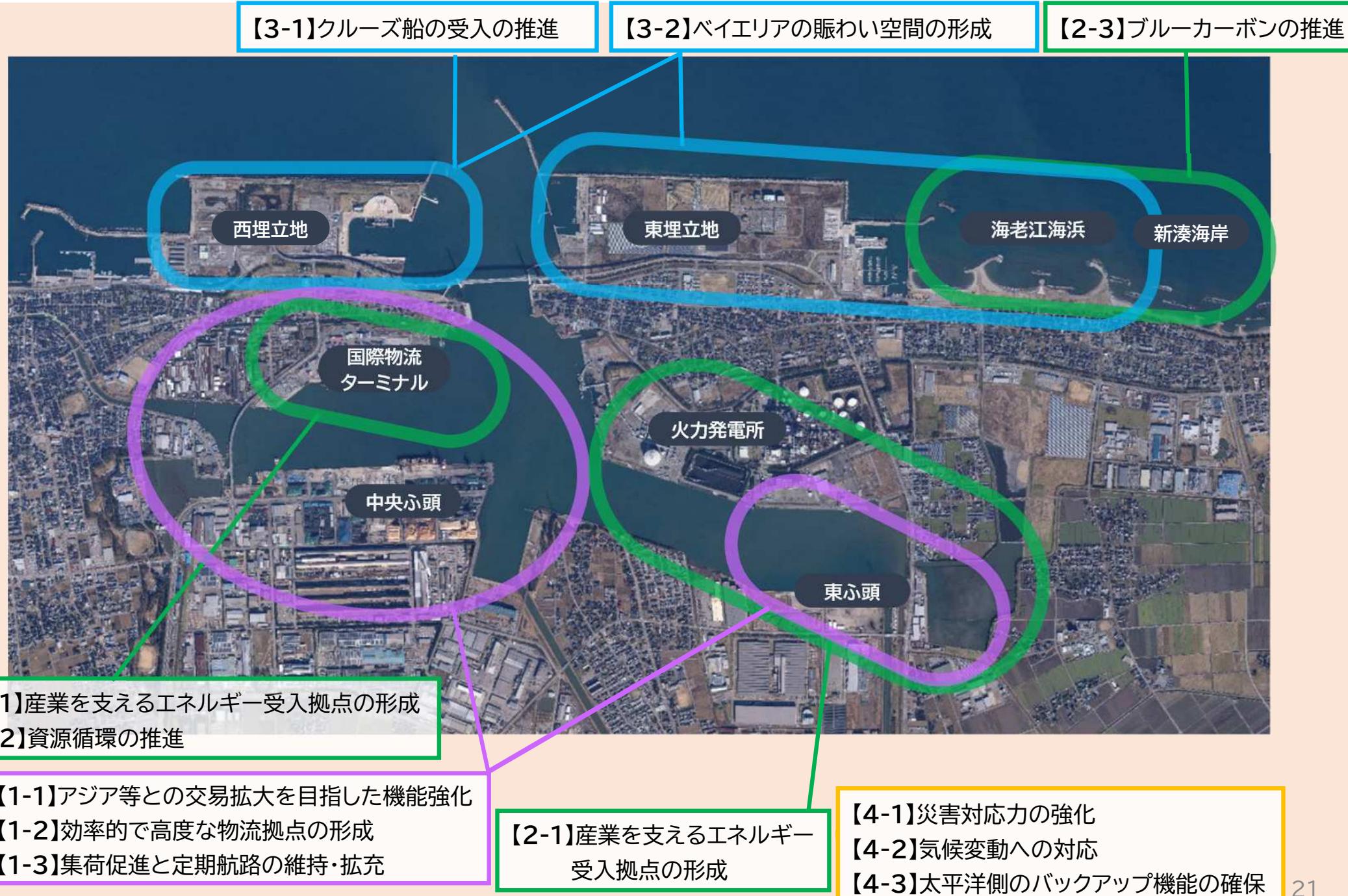
**[4-2]気候変動への対応**

**[4-3]太平洋側のバックアップ機能の確保**

**[2-3]ブルーカーボンの推進**

## 5 将来の空間利用計画(ゾーニング)

注：20年～30年後の将来像をゾーニングしたものであり、現在の空間利用と合致しない場合がある



## 5 将来の空間利用計画(ゾーニング)

注：20年～30年後の将来像をゾーニングしたものであり、現在の空間利用と合致しない場合がある

**【2-3】ブルーカーボンの推進**

**【1-1】アジア等との交易拡大を目指した機能強化**

**【1-2】効率的で高度な物流拠点の形成**

**【1-3】集荷促進と定期航路の維持・拡充**

**【2-1】産業を支えるエネルギー受入拠点の形成**

**【2-2】資源循環の推進**

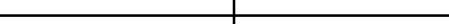
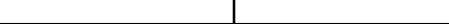
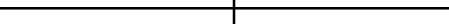
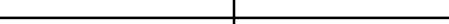
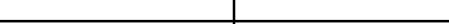
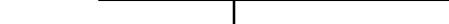
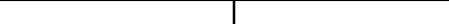
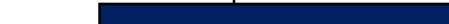
**【2-3】ブルーカーボンの推進**



## 6 長期構想の実現に向けたロードマップ

### 物流・産業

短中期:10~15年後 長期 :20~30年後

目指す方向性	取組方針	取組内容	目標時期	
			短中期	長期
1. 日本海側の産業を支えるゲートウェイのさらなる進化	1-1 アジア等との交易拡大を目指した機能強化	①大水深岸壁を活かしたバルク貨物等のための機能強化		
		②安価で安定した多様な電源(LNG、バイオマス、水素等)の供給拠点の強化		
		③多様な取扱いニーズに対応する受入機能の強化		
		④臨港交通ネットワークの強化		
		⑤多様な物流モードを活かした物流シームレス化		
	1-2 効率的で高度な物流拠点の形成	⑥高規格ターミナルの整備		
		⑦循環型社会(サーキュラーエコノミー)に資する拠点の形成		
		⑧遊休水面の利活用による物流拠点の整備		
		⑨安定的な港湾サービスの提供		
	1-3 集荷促進と定期航路の維持・拡充	⑩インセンティブの充実による集荷促進と航路の維持・拡充		
		⑪豊かな食の富山ブランドの国内外の販路拡大等による集荷促進		

## 6 長期構想の実現に向けたロードマップ

### 環境

短中期:10~15年後 長期 :20~30年後

目指す方向性	取組方針	取組内容	目標時期	
			短中期	長期
2. 未来の環境を守るカーボンニュートラルポートの形成	<u>2-1</u> 産業を支えるエネルギー受入拠点の形成	①伏木富山港港湾脱炭素化推進計画の推進		
		②次世代エネルギーの受入拠点の形成		
		③LNGの確実な供給体制の確保		
		④燃料転換の推進を図る企業への支援		
	<u>2-2</u> 資源循環の推進	⑤サーキュラーエコノミーに資する拠点の形成 【再掲 物流・産業⑦】		
	<u>2-3</u> ブルーカーボンの推進	⑥自然海浜・藻場の造成		

## 6 長期構想の実現に向けたロードマップ

### 観光・賑わい

短中期:10~15年後 長期 :20~30年後

目指す方向性	取組方針	取組内容	目標時期	
			短中期	長期
3. 選ばれる寄港地、ベイエリアの賑わい空間の創出	3-1 クルーズ船の受入の推進	①クルーズ船の受入環境の充実		
		②クルーズ船の誘致促進		
	3-2 ベイエリアの賑わい空間の形成	③富山の食や歴史、景観など観光資源を活かした賑わい創出		
		④海洋性レクリエーション環境の充実		

## 6 長期構想の実現に向けたロードマップ

### 防災

短中期:10~15年後 長期 :20~30年後

目指す方向性	取組方針	取組内容	目標時期	
			短中期	長期
4. レジリエンスの高い強靭な港の形成	4-1 災害対応力の強化	①耐震強化岸壁やヤードを活用した防災拠点の形成		
		②官民連携体制の構築(港湾BCP)		
		③港湾施設の強靭化(県土強靭化)		
	4-2 気候変動への対応	④協働防護の推進		
	4-3 太平洋側のバックアップ機能の確保	⑤大規模災害時の代替輸送ルートの確保		